

令和8年度 第3回八戸市総合計画策定委員会 議事録

日 時：令和8年4月21日（火） 午後2時～午後4時15分

場 所：八戸グランドホテル2階ローズコート

出席委員：アンジェリカ・ワン、今川 和佳子、岡本 信也、奥寺 良之、金入 健雄、

川上 敦史、木村 照男、栗林 志音、小藤 一樹、嵯峨 弘章、佐々木 伸夫、

接待 健一、高橋 学、塚尾 沙貴、堤 静子、田頭 初美、広瀬 知明、町田 直子、

松橋 光宜、南 将人、目澤 伸一、山道 典子、類家 徳久（計23名）

事務局：酒川総合政策部長、高森総合政策部次長兼市民連携推進課長、小笠原課長、番沢 GL、

小笠原主幹、山内主査、磯谷主査、立花主査、関川主査、宮崎主査

【1. 開会】

○事務局（番沢 GL）

皆様定刻となりましたが、昨日の地震の方は大丈夫だったでしょうか。本日は、そのような中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日、司会を務めさせていただき政策推進課参事の番沢啓司と申します。どうぞ、よろしく願いいたします。それでは、只今より、「第3回八戸市総合計画策定委員会」を開催いたします。本日の会議は、お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

【2. 会議成立の報告】

○事務局（番沢 GL）

それでは、会議の開催要件の確認を行います。本日は、委員総数28名中23名の委員にご出席いただいております。それでは、資料の確認をしていただき、本日の議事に入りたいと存じます。本日の会議資料は、紙資料とタブレットを用意しております。紙資料は次第、出席者名簿、席図、報告資料1、審議資料1、参考資料1、2、3、4でございます。タブレットには、その他の参考資料が保存されております。紙資料の不足がありましたら、お近くの事務局員へお申し付けください。

まず、今年度から新たに出席される方をご紹介します。社会福祉法人八戸市社会福祉協議会より、間山委員に代わりまして、松橋委員となります。松橋様、今年度からどうぞよろしくお願いいたします。

また、事務局側でも春の人事異動により、事務局員が変わりました。本日は別件により、遅れての出席となりますので、審議の状況を見ながら、後ほど紹介させていただきます。

それでは、開会にあたりまして、堤委員長から御挨拶をお願いします。

○堤委員長

皆様こんにちは。大変お忙しい中、本日もご出席いただきまして誠にありがとうございます。地震の話も出ましたが、昨日は地震によって不安な時間を過ごされた方もいらっしゃるかと思いますけれども、こうしてお集りいただくことに、心より感謝申し上げます。今回は、第3回目となりましたが、前回は基本構想の骨子案について皆様にグループワークにて様々議論いただきました。今回は、第3回目として基本構想の素案が出来上がりましたので、この素案についてグループワークで進めていただきたいと思います。大変大事な議論の場となりますので、是非委員の皆様方には、率直に御発言いただき、実りある議論・審議をお願いしたいと思っております。それでは、本日も

どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（番沢 GL）

ありがとうございます。それではここからの進行について、堤委員長よろしく願いします。

【3. 報告案件1：これまでの八戸市総合計画策定委員会における決定事項について】

○堤委員長

それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。本日は、報告案件が1件、審議案件が1件となっており、終了時刻は16時15分頃を予定しておりますので、よろしく願いいたします。それでは、報告案件1の「これまでの八戸市総合計画策定委員会における決定事項」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（磯谷主査）

基本構想の審議の前に先立ちまして、これまでの八戸市総合計画策定委員会における決定事項について、御報告させていただきます。

それでは報告資料1について、ご説明いたしますので、お手元に御用意願います。

「1. 次期八戸市総合計画の策定コンセプト」についてですが、①基本構想は、10年程度先の当市の将来都市像実現を目指すために掲げる計画の要となる部分であり、市民との共有を図るため、わかりやすく表現する。②基本計画は、時代の変化に適時適切に対応するため、柔軟性かつ機動性を確保できるものとする。③実施計画相当として取り扱う未来共創推進戦略は、中期的な方向性を見据えつつ、毎年度発生する喫緊の課題等への対応を踏まえた内容とする。④進捗管理は、各課が策定する個別計画の指標との整合性を持たせるほか、市民意識調査等の結果を活用するなど、わかりやすい進捗管理を図る。と決定いたしました。

続いて、「2. 次期八戸市総合計画の構造と計画期間」についてですが、次期総合計画の構造では、基本構想、基本計画、単年度戦略から構成される三層構造といたしました。期間については、基本構想は令和9年度から令和16年度の8年間、前期後期で分ける基本計画は各4年間で、基本計画は政策及び施策の方向性で構成し、単年度戦略、現在は未来共創推進戦略という名称ですが、こちらは1年毎に更新することといたしました。

続いて、「3. 市民参画の取組」についてですが、(1)策定委員会委員の公募、(2)各種市民アンケート、(3)市民ワークショップ、(4)多様な市民参画への取組、(5)各種団体・専門家等との意見交換、(6)市議会からの意見聴取、(7)パブリックコメントの取組を行うことと決定いたしました。こちらの取組の結果について、概要を御説明いたしますので、お手元の参考資料1「市民参画の取組概要について」、御用意願います。市民参画の各取組結果のとりまとめにつきましては、事前に送付させていただきましたので、ここでは実施概要のみご説明させていただきます。

「1. アンケート関係」でございますが、3種類実施いたしました。約3,000名を対象にしたものは、回答率51%、公共施設に設置し、誰でも回答できるようにしたものは134人の回答、こどもモニターは回答率が82%ございました。

「2. 市民ワークショップ」でございますが、八戸市の資源や将来のイメージなどをテーマとして、社会人を対象にした回と、学生を中心に行った回の、合計2回実施いたしました。

「3. 多様な市民参画への取組」でございますが、フォトコンテストとみんなで描く10年後の八戸プロジェクトを行っております。なお、フォトコンテストについては、今年度も引き続き実施いたします。

「4. 各種団体・専門家等との意見交換」でございますが、グループヒアリングはテーマを多文

化共生、若者、デジタル、青年経済界とし、各分野の現状等をお伺いしました。有識者ヒアリングは、八戸特派大使を中心に地方行政などのテーマで6名の方と意見交換を行いました。

以上の取組結果につきましては、事前に皆様に資料を送付しているところですが、本日はタブレットを御用意いたしましたので、審議の際、必要に応じてご覧ください。第2回策定委員会で御説明した取組もございましたが、改めて一式としてデータを御用意しております。

また、今回タブレットに格納しているデータをご説明いたしますので、お手元に「次第」を御用意願います。タブレットに格納しているデータは、只今ご説明いたしました市民参画の取組である参考資料のほか、当市の市民憲章や各種関連データも御用意しておりますので、審議の参考にご覧ください。

最後に、再度、報告資料1をお手元に御用意願います。「4. 備考」として、これまでの策定委員会の審議を受けまして、基本計画部分は市の行政計画として、市長が定めることとし、市の将来ビジョンを定める重要な指針である基本構想を、議会で審議していただく議決事項とするよう、先月の議会で条例の一部を改正したことをご報告いたします。

以上で、報告案件であります「これまでの八戸市総合計画策定委員会における決定事項」についての説明を終わります。

○堤委員長

ありがとうございました。只今の説明に対してご質問等ございましたら、ご発言をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

(質問なし)

○堤委員長

それでは、ご質問がないということですので、以上で報告案件1を終了いたします。

【4. 審議案件1：基本構想（素案）について】

○堤委員長

続いて、審議案件1「基本構想（素案）」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（磯谷主査）

続きまして、審議資料1「基本構想（素案）」について、御説明いたしますので、お手元に御用意願います。

こちらの審議は、前回同様グループワークで進めますので、素案に関する説明と進め方について、御説明いたします。それでは先に、資料の説明に入ります。前回の策定委員会では、構成やコンテンツなどについて、御意見をいただいたところです。その意見の概要は、参考資料2にまとめました。それらの結果を踏まえ、基本構想では例えば将来都市像を最初に配置、人口減少や当市の歴史などを盛り込んだほか、行動指針などでは、これまでいただいたご意見を盛り込むなど行ったところです。また、この素案は市役所の若手職員チームのアイデアを基に文章を作成した内容となっております。この若手職員チームは部局横断的に組織され、全22名、平均年齢30歳程度のチームで、最初は総合計画とは何かという入り口のところから始まりましたが、総合計画の構造や期間などの議論や基本構想などの議論を含め、全6回行ったところです。

それでは実際にページごとの御説明に入りますので、1ページ目をお開きください。赤字の部分には冊子もしくは計画の名称を入れることと考えております。

続いて、3ページをお開き願います。最初に将来都市像を持ってきまして、イラストと文章を配

置する予定です。こちらのイラストは10年後の八戸のイメージを掲載いたします。現在の作文があっさりしたものとなっていますので、委員の皆様におかれましては、実際に市民がこの文章を読んで、10年後の八戸市がどこに向かっていくのかという方向性が、より具体的にイメージできる文章となるよう、たくさん御意見をいただければと考えております。参考までに、全国的にどのような将来都市像が設定されているか資料を御用意いたしました。参考資料3をお手元に御用意ください。こちらの資料は中核市の将来都市像と基本構想の期間、また冊子名称をまとめたものです。

63行目に若手職員チームが考えた将来都市像を掲載しており、「未来が輝き、もっとSINKAするまち八戸」となりました。今後も社会情勢が厳しい状況となっておりますが、そのような中でも多方面で発展、いわゆる進化し続けていきたいというものです。SINKAを英語としている意味としましては、この後のページでご説明しますが、将来都市像の実現に向けては4つの柱を構え、それぞれの分野でSINKAを紐づけたいということです。

柱1は人をテーマに据えているため、深いという漢字を、柱2では仕事・経済をテーマに据えているため、新しい価値という漢字を、柱3では安全安心や基盤といった、まちをテーマに据えているため、伸びるという漢字を、柱4では魅力をテーマに据えているため、心という漢字使っております。ただし、こちらは単語として違う意味を持っていたり、当て字になっていたりします。

一枚おめくりいただくと、それらを実際に資料に落とし込んだもので、あわせてサンプルロゴも用意しました。このロゴは八戸の8と8次総合計画の8とかけあわせつつ、4つの柱をイメージしたところです。その下に将来都市像のフレーズが入るようなイメージです。ロゴを運用する場合は、このような形になるというあくまでイメージサンプルを御用意しました。若手職員の案に関しましても、他都市の事例と合わせて検討材料のひとつ、発想の切り口やたたき台としてご活用ください。

素案に戻りまして、5ページをお開きください。今ご説明した4つの柱になります。左上が人に関する内容、右上が経済・仕事、左下が安全安心・基盤といったまちの内容、右下が魅力に関する内容です。

参考までに現時点で事務局が想定している政策分野を説明いたしますので、参考資料4をお手元に御用意願います。8年間の基本構想に記載される4つの柱は、策定委員会の中で検討いただきます。それに紐づく前期後期各4年の基本計画以下の部分は、策定委員会の御意見をいただきながら、市内部で検討を進めていきます。柱に紐づく施策の方向性の組み合わせは、第7次総合計画や市長政策公約を参考に組み立ており、各柱に2つずつ政策を設けることを考えております。

柱1は人で、政策1では子ども・教育など、政策2では福祉・コミュニティなど、柱2は仕事で、政策3では産業・ビジネスなど、政策4では雇用という観点に加え、仕事を支える労働者自体が地域の財産であるという考え方から、人財という標記を用いることを検討しており、雇用や人材確保・育成、関係者間連携など、柱3はまちで、政策5では安全・安心として、防災や医療・健康など、政策6では基盤・環境として、都市整備や生活環境など、柱4では魅力で、政策7は魅力・観光として、文化スポーツや観光地域づくり、食など、政策8では若者で、若者の定着や活躍、当市への移住・定住、関係人口の創出などを検討しております。

また、基本計画の内容は、政策と施策の方向性のほか、現状や課題、進行管理指標を設けることを検討しています。基本計画に対する御意見は6月以降の策定委員会の案件にすることを考えておりますが、各柱に何が想定されているのかがイメージできるよう、今回は先行して提示させていただきました。この政策や施策の方向性については、並行して市内部で調整を進めてまいりますので、今後調整する可能性があることをお含みおきください。

それでは基本構想の素案の7ページをお開きください。前回の意見を踏まえ、ここでは歴史や発展の背景を、8ページでは資源を設けております。8ページでは資源を記載するだけでなく、コメント風に加工してございます。

続いて、10 ページをお開きください。ここでは人口減少のページを設けております。当市では別途、人口ビジョンという資料を作成しており、将来の推計人口を出しております。このグラフは、その人口ビジョンを転記した形です。今回は機械的に転記させていただきましたが、基本構想は8年間運用する冊子となるため、どのような形で掲載するかは今後の検討事項になると思います。

次の11 ページにあります人口減少による地域への影響につきまして、各分野の影響を記載しております。続いて、13 ページでは行動指針を記載しております。前回の御意見を踏まえて自分ごとや多様性といった要素を盛り込んで作成しており、個人としての視点や行政運営の視点を記載しております。14 ページ以降は計画や市民参画の紹介、アンケートの結果を記載し、最後の19 ページではあとがきを設けております。

以上が素案に対する説明となりましたが、ここからは進め方のご説明いたします。

基本構想の審議は今回と次回を予定しており、今回は意見出しの回と考えております。意見出しでは最も重要である第1章の将来都市像を中心に沢山の御意見が集まればと考えております。内容に人口減少を盛り込んでおりますので、人口減少下で、八戸市は何に力を入れてどういった方向性を打ち出すのか、それが具体的な文章であればと思います。今回の総合計画の策定としては市民との共有を図ることを軸にしておりますので、市民が見て、イメージできるような文章に編集できればと考えております。

進め方に関しては、各班のそれぞれかと思いますが、皆さんが10年後、市がどうなっていてほしいか、どうなっていれば理想か、そういったところから話すスモールスタート的な始め方もよろしいですし、柱ごとに分担して考えていくというやり方、色々あるかと思いますが、各班でまずはファシリテーター役、また発表役を決めながら、進めていただければと思います。

そして、中間報告の時間を設けますので、一度皆様で途中経過を共有させていただき、最後に改めて発表していただく形をとらせていただきます。中間発表では“うまくまとめられた発表をする場”ではなく、“途中経過を持ち寄る場”とします。その時点での状況を教えてください。

各班からは、①前半の話合いを通じて見えてきた「10年後のまちの姿」もしくは柱の方向性、②そのように考えた理由や、印象的だったフレーズや意見、③その時点で悩んでいることや全体に投げかけたい内容があれば教えてください。

最終発表では、結論をまとめる必要はございませんので、それまでの皆さんの発言事項を紹介していただければと思います。また、基本構想に用いたいフレーズや、将来都市像の文章に入れたい内容、4つの柱や行動指針の内容についての御意見を中心にいただきたいと考えております。その中である程度の方向性が見えていればあわせてお知らせください。余裕があれば計画・冊子名称の意見までいただければと思います。

また、次回の策定委員会資料に向けた編集作業に繋げることから、どのような御意見が出されたかをキャッチするため、今回は政策推進課の職員を各テーブルに配置させていただいたほか、今回の御意見を基本構想の文章に反映させるに当たり、市民にわかりやすく表現する必要があることから、事務局席に委託業者も同席して皆様の発表をお伺いする体制をとっております。

以上、説明が長くなってしまいましたが、審議案件の「基本構想（素案）」に関する説明と進め方について、説明を終わります。

○堤委員長

ありがとうございます。ただいま説明がありましたとおり、前回の審議では、基本構想の構成や盛り込んだ方がよいコンテンツを中心に審議しましたが、今回は実際に将来都市像、それを実現するための柱、行動指針などの内容そのものについて、事務局の素案を基に各グループの中で御意見を出し合って、肉付けを行っていく作業となります。

それでは、適宜休憩を挟みつつ、各グループで作業の方をお願いしたいと思いますが、15 時頃から各班から簡単に中間発表を行うことといたします。この中間発表は、各班でどのような意見が挙がっているか、皆様に共有するために行うものです。

そして 15 時 45 分頃から、各班から発表をいただく形にしたいと思います。

最後の発表では、素案への意見のほか、将来都市像のフレーズや計画の名称、基本構想の冊子名称などのアイデアがあれば、あわせて発表をお願いします。

進め方などについて、ご質問やご意見がありましたら、御質問などを頂戴したいと思います。

(質問なし)

○堤委員長

質問はないようですので、何かあれば職員が各テーブルに 1 人ずつ張り付いて記録等をされるようなので、お尋ねいただければと思います。それでは、各班の作業の方を始めていただければと思います。

【5. 中間発表】

○堤委員長

皆様、たくさん意見出しが行われておりますが、そろそろ中間報告といたします。たくさん意見出しで盛り上がっている中で申し訳ありませんが、共有のために一度中間報告の時間を設けさせていただきます。では、A 班から順次発表をお願いいたします。

○A 班

A 班の方から中間報告の内容を報告させていただきます。大きく分けて「10 年後の都市像」と「4 つの柱」について議論しました。

10 年後の都市像に関しては、大きく分けて 4 点ほど意見が出ております。まず 1 つ目は、「誇りを持てるまちにしよう」という点です。まちに魅力を感じたり、シビックプライドの醸成、こうしたことを高めることによって、U ターンの人が増えたり、転出が減ったり、経済効果も様々出てくるのではないかと。また、色々な人材、文化が集まる場所になるのではないかと、誇りという点に注目した意見が多く出ております。

また、構造に関するお話も出ております。社会構造に関するお話です。集約していくと稼ぐ力、あとは住みやすさ。やはりまちの魅力はこの 2 つで大きく分かれるのではないかと意見が出ております。選ばれるような都市、市民が登れるようなステージを作っていくということも、姿勢として大事ではないかということです。

また、人口減少は 10 年間で確実に進んでいきますので、それを補うような構造改革も必要ではないかという点も意見として出ております。外国人材との共存、デジタル人材の強化。こうしたことをすることによって、中小企業の個社で抱えている間接業務をアウトソースしたり、イベントや PTA といったコミュニティが抱えている事務局などもアウトソースすることができて、地域の無駄なリソースと仕事を再調整することができるのではないかと意見がございました。

また、近隣の市町村と戦略的にまとまっていく必要があるのではないかと意見も出ておりました。近隣の市町村にもそれぞれの魅力がありますので、連携しながら役割分担をして、インフラなども集約していかないと行政コストも今後かかっていきますので、その辺は戦略的にまとめていく方向性が必要ではないかということです。

最後に、娯楽です。外せないキーワードとして娯楽の話も出ております。娯楽というのは仙台や

東京と比べると、やはり勝てるものがないと。娯楽はゴールがなくて手が出しづらいというところもありましたが、やはり年齢を重ねると八戸でしかできないことに魅力を感じる、それで戻ってくるという形が多くなっていくので、東京にあるもの、仙台にあるものを作るのではなく、八戸でしかできないようなことを娯楽化するというのも大事な要素ではないかという意見が出ておりました。

あと「4つの柱」についてですが、4項目ありまして、どの自治体でもありがちな4項目ではないかとお見せしておりますが、仕事のところに関しましては、仕事というよりは八戸市の「稼ぐ」というキーワードにした方が、よりメッセージが伝わっていいのではないかという意見が出ております。以上です。

○堤委員長

ありがとうございました。では、B班お願いいたします。

○OB班

フリートークで意見交換をさせていただきましたが、この中間発表の後にまとめていきたいと思っております。

初めに、4つの柱のところなのですが、今の素案を拝見すると文章がかなり長いので、もっと簡潔なキーワードとして出していった方がいいのではないかという話が出ております。

あと、B班は結構ハードのお話をしまして、「医療特区」などの特区のようなものはできないか、市民病院を中心とした10年後の医療体制、こうしたものを構築していけないかという意見が出ております。また、そうした医療体制をとっていくとなると、医療機関同士をつなぐ交通手段、そうしたものを構築していく必要があるのではないかという意見も出ております。あと、青森県内にはリハビリテーション病院に特化した病院が少ないので、専門特化した病院というものがいいのではないかと、10年後の医療体制についての意見も出ております。

あと、雇用と言いますか「稼ぐ」ということに関してですが、八戸に戻ってくる人、首都圏に就職したが戻ってきたい人の採用に力を入れていった方がいいのではないかと。戻ってきた人たちの仕事先、雇用条件、あと可処分所得では首都圏とそんなに差がないのではないかと、あるいは差がないようにしていく必要があるのではないかとのお話。あと、やはり稼げるまち、もともと八戸市は稼げるまちであることが魅力だったのではないかと。もう一度稼げるまちへ再生していければいいのではないかと。ただそれだと他のまちも同様なので、プラス八戸ならではの体験、そうしたものが加わるといいのではないかとのお話が出ております。

あと、やはり八戸市はどうしても首都圏と比べると賃金が安くて出ていってしまう人が多いのですが、幸福度、幸福感を感じられるようなまちにしていく必要があるのではないかと。同時に、大人たちが楽しんで働いている姿が見えていないのではないかとのお話も出ております。八戸でしかできない体験などを体験してもらえるようになるといいのではないかと。あと、昔と違って稼いだお金を自分たちで使うと言いますか、使い道が変わってきているのではないかと。というご意見も出ております。

あと中心市街地についてですが、夜の回遊性はあるんだけど昼間は人があまりいないとか、マンションは増えているけれど学校やスーパーがないので、いまひとつバランスが取れていないのではないかと。あと、八日町と十三日町あたりが空洞化しているのではないかと。あと、公開講座や学会などをやるような会場が中心市街地では開催できない、不足しているのではないかと。あと個人的な意見ですが、中心市街地は飲み屋さんやホテルが近く出張族にはとても人気があります、という意見。大体B班からは以上の中間報告となります。

○堤委員長

ありがとうございました。では、C班お願いいたします。

○C班

C班の発表を行います。八戸市の独自の10年後を考えたときに、他の都市と比較してどうなのかというところから考えていきました。「挑戦が成果に変換しているまち」とか「誰もが活躍できるまち」とか「中心街をもっと活用してほしい」とか、地元の人ほどいかに楽しむか。親世代が楽しんでいる様子を子供に見せていくことが大事だとか、八戸を好きになってもらったら、逆に外に出て行ってもらうのもOKかもしれないねという話。外に自慢できるくらいの人がたくさんいたら、もっといい八戸になるのではないかなということで、その「好きになるための要素」って何だろうというところを考えていきました。

今、柱の4つが「人」とか「仕事」という形になっているのですが、この柱を例えば「挑戦」「応援」「感動」みたいな感じの、好きにまつわる単語にちょっと変えていったら、また読みやすく、挑戦が好きな人、感動要素が好きな人っていうのがそこを読みやすくなるのではないかというお話をしました。例えば感動で言うと、都会ではできないようなこと。漁船で網を引き上げているところを見たときに、すごい感動されたというお話があったので、そういう感動とかで八戸を好きっていうのがあるだろうと。

好きの解像度がアップすることで、ポテンシャルはもっとどんどん上がっていく都市なんじゃないかというお話も出てきました。自慢できる要素がもっといっぱいあるはずなので、そこを開拓して市民の好きの純度が上がるっていうのがいいんじゃないかというお話が出てきました。以上です。

○堤委員長

ありがとうございました。では、D班お願いいたします。

○D班

D班の出た意見を発表いたします。まず1つ、「ワクワク感と自分事化」という意見が出ました。ワクワク感と自分事化っていうのはどんな時代においても、その地域で暮らす住民にとってとても大事な考え方ではないかということで、例えばワクワク感で言いますと、まちに来たときに自分で何かをしたくなるような機会が与えられているというように。具体的に言えば、例えば今、十三日町の某跡地がどうなるかというようなことが話題にされていますけれど、ああいった空いている場所や動かずにいる場所、負の遺産とも捉えられるような場所をどのように活用していったらいいのか。それを磨き上げて新しい場所に育てていく力、それをまた具体的な政策に落とし込んで、それを応援していくっていうことが大事なんじゃないかという意見が出ました。

その中で、例えばそこに新しいビジネスと組んで、新しい産業が生まれるような、知識が集積するような場所として活用するのもいいでしょうし、クリエイティブな人材が集まって何かアイデアが生まれるような場所に活用していくのがいいのではないかという意見がありました。また「自分事化」ですけれど、資料の中にも自分事化という言葉が出ておりますけれど、例えば町内会活動で会費を払う払わないとか、身近なそうした小さな一つ一つのこと自治体のシステムとか、今までの慣例的なものを見直す時期に来ているのではないか。誰もが自分事として参加できるようなまちづくりと、そのシステム作りが今必要なのではないかという意見が出ました。

また、先ほどの空き店舗の活用とかそうした資源に関しては、やはり中心市街地をはじめとして、まち並みの美しさが10年後どうなっているのかということで、古い建物も増えていくでしょうし、そうした中でどういう風にまちづくりをデザインしていくのか、建物的なまちづくりの視点も八戸はちょっと弱いところがあるんじゃないかなという意見が出ておりました。

八戸らしさというところが大事なのではないかというのは前回の会議でも、今のご発表の中にもありましたけれど、八戸らしい文化とか生活風土が残っているっていうのはやはり一つの強みでありますし、他との差別化っていう点においては欠かせない点であるという意見も出ております。

この八戸らしさというところから、今回、将来都市像のところ「〇〇なまち」という言葉がついておりますけれど、「まち」というひらがなの言葉使いではなくて「港町」という漢字を使って、八戸はどういう発展をしてきたのか、どういうまちなのかというのを特徴的にしっかりと打ち出した方がいいのではないかというご意見も出ておりました。そしてその中で八戸が多様性と創造力を満ちたまちであるということが、産業が多様性であるとか、外国人がたくさん居住しているということからも象徴されるように、創造力を生み出す環境が十分に整っているというところから、今後どのようにして選ばれるまちとしてその価値を打ち出していくのかという点においては、港町らしさっていうのももっと打ち出した方がいいのではないかという意見が出ました。

さらに、若者ですとか子供が計画の中では重きを置かれて出てくることが多いんですけど、シニアの視点っていうのもすごく大事なんじゃないかという意見がありました。これから高齢化社会になって高齢者たちがどのように安心して暮らせるのかっていうのはすごく大事な視点で、例えば公共交通の発展ですね、車がなくても安心してまちを動ける、公共交通機関の充実。また働く場所や新しい産業の創出。このことが、子供たちが外に出て行かずに八戸で暮らせるということに繋がっていくのではないかという意見も出ました。また都市間競争ではなくて、他と比べるのではなくて、オリジナルを重視してオンリーワンのようになれるというのが重要ではないかというような意見が出ました。以上です。

○堤委員長

ありがとうございました。では、E班お願いいたします。

○E班

Eグループでも主に素案に対する意見について話し合いました。素案の中で、市制施行100周年について一言も触れられていないので、100周年を迎える総合計画は今回が最初で最後だと思うので、そうした意見もありました。また、止まらない人口減少の中でどう順応していくか、そうした部分、環境に対応していく。一方で、やはりその人口減少、少子高齢化に抗う姿勢も捨ててはいけないのではないかという意見もありました。

人口減少していく中で人と人とのつながりが強くなることが想定されるので、より多様性を持った人とのつながりを育む八戸市になればもっといいなという意見もありました。あと、広域連携、先ほどもお話出ておりましたが、広域連携においてはやはり周辺町村に対して八戸市のリーダーシップというのは大きく求められる部分ではあると思いますので、どのようなリーダーシップを発揮していくか、これは明確にしておいたほうがいいのではないかという意見がありました。

素案全体的については、漠然としすぎないである程度、ここはこう決まっているなみたいな部分が、ぱっと誰が見てもわかるようにした方がいいんじゃないかなという意見もありました。

最終的に、どんなまちになっていっていただきたいかという話でまとまったのが、八戸に住んでいる大人たちが八戸市の愚痴を一切言わない、そんなまちがいいなという意見で終わりました。以上です。

○堤委員長

各班、多くの意見を出していただきまして、ありがとうございました。それでは、事務局の紹介をお願いいたします。

【6. 事務局紹介】

○事務局（番沢 GL）

それでは審議の途中ですが、改めまして事務局の職員を紹介いたします。

（事務局の紹介）

【7. 最終発表】

○堤委員長

それでは、中間報告も終わりましたので、最終発表に向けて各班で引き続き審議をお願いしたいと思います。

（グループ審議）

○堤委員長

まだ、御意見を出されている班もありますが、最後の発表を後ろのE班からお願いしたいと思います。

○E班

E班ですが、先ほどの発表が最終発表に近かったんですが、構成として、今3章にある「八戸について」という部分は冒頭に持ってきたほうがいいんじゃないかという意見でまとまりました。八戸はこんなまちですよというのを読んだ後に、だから基本構想をこのように作りましたという構成になるんじゃないのかな、と。そっちのほうが自然じゃないのかなという感じで意見が出ておりました。

あとは直接的なフレーズ、キーワードっていうのはなかなか出てこなかったんですが、ニュアンス的にはさっきも言った、とがった感じ。要はですね、4つの柱のページをパッと見たときに、この文章、どこの行政でも当てはまるんじゃないのかなという印象。別にこれが八戸のものですよって言うても「ああ、そうだね」ってなるし、盛岡市のものですよって言うても「ああ、そうだね」となりそうな感じなので、八戸らしさというか、八戸はここをこだわっていますよという他とは違う部分っていうのが、パッと見てわかる柱にしたほうがいいんじゃないかという、厳しい意見が出ました。

○堤委員長

ありがとうございました。では、D班お願いいたします。

○D班

D班の発表をします。基本構想に用いたいフレーズ、キーワードは、先ほどの発表にも重複する部分があるんですけども、まず「ワクワク感」、「自分事化」、「八戸らしい文化・生活風土が残るまち」、「子供からお年寄りまで共に育てあうまち」、「多様性」、「創造力」、「シニアが楽しめる安全なまち」、「都市間競争ではなくオンリーワンを目指すまち」というのがキーワード、フレーズとしては出てきました。

将来都市像の文章として具体的に新しいものを充てたわけではないんですけども、「SINKA」というアルファベット表記になっている文字が、ご年配の方が見たときには読みにくいかもしれないから、カタカナとかでもいいんじゃないかという意見が出ました。

4つの柱については、概ね分け方としては好ましい形になってるんじゃないかなという意見がありました。E班と一緒に、八戸らしさがどこか感じにくい部分があるので、少しそういったもの

が盛り込めるといいんじゃないかという意見が出ました。

そして、本の名前ですけれども、「八戸未来ビジョンブック」というのが、ビジョンと未来が同じことを言っているので、「八戸ビジョン 2037」とか、というような表現がいいのでは。また、八戸ってというのは読めない方もいるということで、ひらがな表記が良いのではないかという意見も出ました。あと第7次の計画にもありましたけれども、専門用語がわからない方もいるので、用語集はつけたほうがいいのか、という意見も出ました。

あともう一つ、他のグループさんからも先ほど「稼ぐ」という言葉がちょこちょこ出てきていて、確かに地域の経済的なことの基盤でもありますし、大事な視点ではあるんですけれども、言葉としてちょっとストレートというか、あまりどうかなという意見が出ました。以上です。

○堤委員長

ありがとうございました。では、C班お願いいたします。

○C班

C班の発表を始めます。基本構想に盛り込みたいフレーズ、キーワードですが、先ほどもちょっと重複しますが、「好きの解像度が上がっていくまち 八戸～やっぱり八戸が好き～」っていうのをフレーズで作ってしまいました。

それで、将来都市像の文章なんですけど、これを4つの柱に被せる形にしたらいいのか、ということで、4つの柱をちょっとこの班では編制し直して、「挑戦」「応援」「感動」。これは、結構上に引き上げるようなイメージがあるものなんですけれども。近年やっぱり子育て世代の虐待ですとか母子心中みたいなのがあったり、というところもあるので、やっぱりベースラインを守るみたいなイメージも入れたいなということで、「安心」「温もり」みたいなのがもう一つ入ってくるといいのか、と。

これに、例えば挑戦であれば「年齢問わず挑戦できるまち、八戸」とか、応援であれば「自分の得意を活かして応援をしていくまち」とか、感動であれば「見慣れた風景にも実は感動が見つけれられるまち」とか、温もりであれば「みんなが取り残されず温かくつつまれるまち」みたいなのが、将来都市像の文章の中に入っていたらいいのか、という話をしました。

4つの柱に関しては、この4つなんですけれども、行動指針の中で、大切にしたい視点の中に「尊重」という言葉を入れるといいのかなと。先ほどの「温もり」というところにも被りますが、やっぱり誰も取り残されず、特に経済的にも状況的にも不安定になりやすい子供とか子育て世代が、どうしても無視されがちなまちなので、ちょっと見えづらいところがあるんですけれども、子育て世代も尊重されるようなまちになっていったらいいのかというお話をしておりました。以上です。

○堤委員長

ありがとうございました。では、B班お願いいたします。

○B班

B班の発表をさせていただきます。先ほどの中間発表の後に出了た、自由な意見を言わせていただきます。中心街については、人が集まる仕掛けをもっと作っていったほうがいいのか。楽しそうな姿が見えるような仕掛けにしていったらいいんじゃないか。あと、海辺のほうのアピールですね。親水空間などが不足していると。あと港の岸壁だったりフェンスで覆われていたり、あと大型船が着岸できるようになっていけばいいなと。あとポートアイランド周辺を活かす。海辺の景勝地への交通アクセスがまだ良くないということで、そういった周遊できるようになるといいなと。

あとやはり良さを活かしていったほうがいいのか。流行りではなく、良さを活かしてい

ったほうがいいんじゃないか、この10年後の姿ということで。良さを活かしていくということで、一つに八戸市は地震・津波があるんですけど、「地震・津波に強いまち」とも言えるかなと思うんですね。で、なおかつ「水道管が強い」と。昨年12月の地震でも、あのぐらいの地震だと普通は水道管の破損というのはあるんですけど、そういったものがなかったということで、非常に災害に強いまち。あと「雪が少ない」。そういったところをPRしていったほうがいいんじゃないかという意見でした。

雇用面に関しては、やはり女性の正規雇用ですね。もっと増やして、夫婦揃って正規雇用だとそこそこの地方都市で十分な暮らしができるんじゃないかという提言も出ております。あと、知事に先を越されないまちになっていくといいなど。

というようなことでまとめていきますと、B班としてはですね、八戸らしさと、もっと稼げるまち、という、そのへんが一つ、B班の意見のまとめかなと思ひまして。それを一つのキャッチフレーズにすると「八戸だからできる豊かな暮らし」というようなキャッチフレーズを考えてみました。冊子の名称については政策推進課にお任せします。ということでB班の発表を終わります。

○堤委員長

ありがとうございます。では、A班お願いいたします。

○A班

A班のほうから発表いたします。1番、2番共通で、用いたいフレーズ、キーワード、八戸らしさについてですが、いくつか案が出ました。先ほど中間報告しました通り「誇り」「プライド」、そういうふうな単語を入れたほうがいいんじゃないか。また「みんなで作ろう」、あとは「挑戦しよう」。そういうふうな雰囲気キーワードが入ったほうがいいんじゃないか。あとは、もっとストレートに分かりやすい文章が入ったほうがいいんじゃないかということで、「若者が住みたいまち、八戸」。こういったキーワードを最初に謳った方がいいんじゃないかという意見がありました。

あとは「進化」というキーワードですけど、「SINKA」ではなくて「SHINKA」じゃないかというご指摘もありましたので、共有させていただきます。

3番の4つの柱についてですが、3番4番、行動指針も含めてですが、将来都市像があってこそこの4つの柱、行動指針が明確になってくるんじゃないかと思うんですが、まだ将来都市像が見えていない中なので、4つの柱と行動指針というところは具体的な意見というものは出ていないんですが、4つの柱につきましては、何か4つの柱の連動があったほうがいいのではないかという意見が出ております。「誇りの醸成」「稼ぐ」「住みやすさ」「魅力」のような、これをやるからこっちに繋がっていくみたいな、4つの柱の連動が見えるといいのではないかなという意見が出ております。

4番の行動指針につきましては、こちらの方も意見というよりは、この行動指針をここに設ける目的ってなんだろう、という意見が出ております。作ることが目的なのか、これを市民だったり行政の共通の旗印として落とし込むことが目的なのか。どう使うかというところが非常に大事で、行動指針をここに置く意味というのはなんだろう、というようなところが出ておりました。A班からの発表は以上です。

○堤委員長

ありがとうございます。各班から大変多くの御意見を頂戴しましてありがとうございます。事務局の方では、これらの意見を取りまとめて、次回の審議に向けて資料の作成をお願いしたいと思います。本日本日予定していた案件は以上ですが、皆様から全体を通して、御確認したいことがあればお願いします。

(質問なし)

○堤委員長

なければ、事務局の方からは何かございますか。

【8. その他】

○事務局（磯谷主査）

事務局から次回の会議日程と、お手元の会議資料の保管につきまして、ご説明します。

次回の会議は、6月22日（月）14時から16時30分頃まで、会場はグランドホテルで調整中ですが、開催期日が近くなりましたら、改めて出席確認いたしますので、よろしく願いいたします。

次に会議資料の保管について、ご説明いたします。本日、お配りしたタブレットにつきましては、返却をお願いします。会議資料及びファイルにつきましては、持ち帰ってご覧いただく予定がなければ、事務局で保管しておき、次回の開催時に今回と同じようにご用意いたします。また、持ち帰られる場合は、次回ご持参をお願いいたします。

事務局からの連絡事項は以上でございます。

○堤委員長

それでは、これで議事を終了いたします。御協力ありがとうございました。では、進行を司会にお返しします。

【9. 閉会】

○事務局（番沢 GL）

次回の委員会では、引き続き基本構想の審議が中心となる予定でございますので、よろしくお願いいたします。以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。本日は、どうもありがとうございました。